

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000431		
法人名	有限会社紫おん福祉の家		
事業所名	紫おん福祉の家		
所在地	熊本県葦北郡芦北町鶴木山1288-5		
自己評価作成日	令和2年10月6日	評価結果市町村報告日	令和2年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季を感じる自然環境、家庭的な雰囲気での暮らしぶりです。。経験と力量のある職員。地域交流は、今年はコロナ禍と。水害でやむなく中止しましたが、例年なら、ソーマン流し、音楽療法、コーラス訪問、踊りの訪問などを行っています。毎日の活動として、ラジオ体操、口腔体操、歩きましょう運動、ぬり絵や折り紙、貼り絵などの創作活動、DVDで歌謡曲、お笑い、映画などを楽しんでいます。以前、若年性認知症の方2人も受け入れたことがあり、職員一丸となって取り組み学んだ経験が、色々な方に活かされています。

訪問当日玄関を開けた際、入居者の皆さんそれぞれから笑顔で挨拶を受け、日頃の事業所の様子、入居者皆さんの生活の様子が窺えました。周辺は今年7月の集中豪雨の爪痕が未だ癒えず、更に、その後の台風時には公営の施設に避難された様子が思い起こされます。感染症、災害と例年の楽しみ事の開催もままならない社会状況の中、居室内の除菌薬設置や共有空間での活動に配慮しながら事業所内での行事は継続し、日々の生活を「安心・安全に」「一人ひとりを大切に」の理念のもと、楽しみのある生活がなされている様子が聞かれました。入居困難例や摂食困難例にも事業所全体で取組み、「記録をとることで方針が見えてくる」の考えのもと職員一丸でケアに臨まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安全安心、自立、基本的人権の尊重を旨として、職員研修において学び、個々に合った支援をしている。	設立以来の理念は職員に浸透し実践されている。今年度の研修では職員の職業倫理をテーマとした中で理念を深化し、書物を引用した代表者の思いを職員へ伝え、職員の「安全安心」への思いを発表する場が持たれた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は、コロナ・ウイルスと水害で活動出来なかったが、例年は、民生委員さんを中心に地域出身の職員により繋がりが出来ている。ソーマン流し、音楽療法、花見等により、交流が出来ている。昨年までは町の文化祭にも出品していた。	地域とは、事業所・地域行事や運営推進会議を通じた日頃の関わり等で交流が続いている。職員も地域と関わりがあり、入居者も地域からの入居であるため、馴染みがある関係である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、コロナで思うように活動出来ないが、前項の行事で認知症の予防や理解を深めるようにしている。介護の相談にも応じるようにしている。認知症サポーター講座の講師をしたこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では、月行事や利用者近況を細やかに報告している。頂いたご意見をサービス向上に活かしている。災害時の避難方法等もはなしあっている。現在はコロナ自粛で会議は中止だが、文書で報告している。	隔月の会議では日頃の報告や行事計画・報告だけでなく、事業所の課題の報告や運営規程改訂の報告等、運営に関するあらゆる事項を伝え意見を得る機会と活かされている。今年度は感染症対策の観点から書面による開催としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場に出向き、町役場担当者との連携はよくとれていると思う。コロナ自粛の前は、運営推進委員会にも毎回出席してもらい、情報をいただいている。	役場とは日頃から情報交換等で関係を構築している。今年は特に台風時に避難を行い、事業所と役場の役割を持ち連携した。これを機に事業所では避難記録を作り、役場と今回の反省及び今後の連携について話す機会を持った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針である。事業所内研修でも学んでいる。身体的拘束適正化委員会を作り、拘束・虐待防止に向けた取り組みを行い、記録を取り、事業所内研修会で検討している。	虐待・身体拘束ゼロを目指して「紫おんで実行していること」を7項目定め、「拘束しない」ことを基本方針としてケアにあたっている。項目では、研修の実施や言葉遣い、入居者家族への報告について等が定められており、日頃の取組みの様子が窺える。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	包括支援センターのネットワーク虐待防止研修、GHブロック会でも取り上げて研修している。		

紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2018、9県主催の高齢者権利擁護特別研修参加。2019、9県権利擁護推進委員会研修参加。研修で学んだことを事業所内研修にて、職員と共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、十分説明している。特に入院になった時の待つ期限についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時などに聞く事になっている。	日頃から面会もよくみられることから、来訪時には職員が家族とも話し、意向を把握する機会としていた。今年度は面会の受入れが難しい状況であることから、面会の仕方を工夫している。事業所からも家族へ入居者の様子を書面や電話で伝え、意向の把握に努めている。	事業所からの働きかけによる家族との連携の様子の例も聞かれました。この様な時期であるからこそ、それぞれの家族が意見を述べ表すことが出来る機会作りに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内研修や、日常のミーティングの中で意見や提案を聞いている。	日頃から代表者・管理者もケアに関わっているため、職員も意見を述べる機会を持っている。毎月全職員集まる機会(研修)を持ち、代表者・管理者と職員、互いの意見交換が出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気持ちと努力は惜しまないが原資がないのでくるしいところ。職員の平均年齢が高いため無理の無い勤務体制にしようと努力している。今年はコロナ慰労金がある予定である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修、GHブロック主催の研修、認知症ケア研修会など、研修参加に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度は、GHブロック会研修でビーチバレー、懇親会などがあったが、今年度は、コロナ・ウイルスで交流は出来ていない。		

紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とご家族と入所時似よく話を聞き、職員で共有し、安全と安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、時には電話などでご家族の不安や心配事、金銭面のことを聞き、必要に応じて生保などのしんせいもお手伝いしている。家に残されたご家族の介護の相談にもものっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で「その時」必要としている支援を把握し、ケアプランに入れ、医療連携、終末ケアも含めて相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの小さな役割を持ってもらうなどの努力をしている。一部の方には、テーブル拭き、調理の下拵え、新聞たたみ、洗濯物たたみなどをお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	樹陰回数が多い方には受診介助をお願いしたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで、お祭りなども出かけられず、電話やお手紙などをお願いしている。ご家族から、お葉書や花、菓子などの贈り物がある。	何よりも家族との関係を大切にしている。感染症対策で面会もままならない状況であるため、面会の仕方や電話連絡等で支援している。	感染症予防・対策の面から、今年度は地域・事業所・家族との催事等が中止になり、支援が難しい状況であることが窺えました。この状況が改善された際には、これまでの経験を活かした地域や家族との関係継続に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日当たりの良い所に、ソファを置き、話をしたり、食事やおやつの座席の考慮で良い関係が来ている。		

紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に行かれた時など、面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、とか、お茶の時間などに、ご希望や思いを聞くようにしている。	日頃から入居者と寄り添う時間も多く、日常生活の中で意向の把握を行っている。趣味や好みは入居者の生活歴を職員で共有し、今の生活の様子と併せ日々の生活に活かしている。「皆と一緒に」ではなく、「それぞれ」を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時に以前のケアマネージャーから、情報をいただいたり、ご家族や地域のかたの交流の中でお聞きして、経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のミーティング、毎夕の引き継ぎにて把握している。記録もとっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の研修会や朝の話し合い、ご本人、ご家族の希望を取り入れて介護計画に反映させている。	日頃の関わりや生活から得た入居者の様子は職員間で共有し、職員研修会でも介護計画作成に向けて意見を出し合う場を持つ。計画の見直しは年2回行い、内容は職員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録、申し送りノート、などに記録して、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況におうじて、柔軟に支援している。		

紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区区長、民生委員、消防団、その他地区住民の協力を得て、安心、安全に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望される主治医の毎月の診療を、訪問診療と通院受診で受けている。その他、歯科、精神科、整形外科、訪問歯科を受けている。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。現状では町内のかかりつけ医からは訪問診療、町外は家族による通院介助を基本としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤であり、看護も介護も連携が良くとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報の交換、相談は看護師を中心に良い関係が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ご家族と話し合い、ご本人に一番ふさわしいケアを受けられるよう話し合う。特に終末期には、医師、家族、GHの三者にて協議を重ねて取り組んでいる。	重度化や終末期に関する事項は入居時に入居者と家族へ説明を行っており、現状では看取りを前提とした積極的な受入れは行っていない。実際にその時を迎えた際には、関係者・関係機関と話し合いを重ね、入居者の生活にとって最善と思われる対応を支援する。現状では医療機関へ移る入居者が殆どである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師は常勤であり、指導、指示により対応している。訓練は定期的に行っていないが、対応の仕方は、マニュアルを事務室に貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を行っている。消防団、地区住民、町役場との協力体制が出来ている。火災報知器、スプリンクラーの設置済み。R2. 8. 台風10号到来時、ホーム全員で県立青少年の家に避難し、反省から次回のためのマニュアルを作成。	地域・行政とも連携がとれており、年2回の火災避難訓練を行っている。今年の豪雨の際、町にある施設に避難した経験を排泄・食事・体調等5項目を記録に残し、災害に備えての対策を考えた。町とも記録をもとに情報を共有した。	

紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経営理念に一人一人大切に。自立、安心、安全を基本に言葉かけを気をつけている。排泄、入浴介助の時など特にプライバシーを大切にしている。	虐待・身体拘束ゼロを目指して「紫おんで実行していること」を定めた7項目の中には尊重とプライバシー確保についての内容も含まれており、「言葉遣いは人生の先輩に敬意を表したものに」等、日頃のケアの基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に心がけ、表情に留意し、コミュニケーションを図って、一人一人の状況に柔軟に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状況に応じて、出来るだけ希望に添って支援しえる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みや季節にあった洋服、整髪、お洒落に気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材、家庭料理、行事食に気遣い、利用者も出来る範囲で一緒にやっている。減塩に留意し、麦飯、小豆も時には取り入れている。塩分測定器を備え、誰が作っても減塩食ができる様にしている。	職員手作りによる季節感や地元食材をふんだんに使いながらも健康にも配慮した毎日の料理は入居者にもとても好評である。入居者の中には料理好きな方もあり、出来る範囲での手伝い等関わり作りも続いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は記録をとっている。水分を摂らない方が数名おられ、お茶の後にヤクルトとか、お茶を少し飲まれたところでおやつを出している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをされるよう声かけし、一部の方は磨くのを介助したり、歯がない方も口腔消毒液をスポンジに含ませて口腔内のぬめりを取っている。		

紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から、お一人お一人のパターンを把握し、シグナルを見逃さず自立に向けた支援を行っている。	日中は出来るだけトイレでの排泄を支援している。冬季の夜等、安全面で心配がある時にはポータブルトイレを利用する等、入居者それぞれの状況により個別の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料を取り入れ飲食物の工夫はもとより、協力医や薬剤師に相談しながら、服薬や座薬、浣腸などを使用している。頑固な便秘症の方に、朝牛乳とキウイ1個食べて頂き、改善した例もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や湯加減の好み、入浴時間の長短などを考えて、入浴する順番を決め、色々話を聴きながら入浴していただいている。	入居者それぞれが心地よい入浴時間を過ごせるよう、湯温や時間等の好みに合わせて対応している。週3回を基本としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	困難な方もおられるが、運動、服薬管理で眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指示の下、看護師を中心に全職員が共通理解を持ち、服薬支援をしています。薬は、二人で確認し、誤薬の無いようにしている、拒薬傾向、嚥下困難の方にはオリゴ糖を使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や談話の中で得た情報から、ご本人が楽しく思われることを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナ、水害、町のイベントも中止になり、外出は控えざるをえなかったが、短時間でも庭に出て、キックサッカーをしたり、廊下を歩いてポイント制にし、自発的に歩いておられる。	感染症予防・対策に災害と、今年は例年のような外出を楽しむ行事は減ったものの、事業所は自然豊かな環境であり、庭で季節の花見や散策、庭いじりと、日常的に外気を楽しむ様子がある。日々の生活の中で、ゴミ出しや車で的外出等、個別に行っている。毎日午後には事業所内散歩の時間があり、ゲーム性を持たせ入居者の笑顔が見られる。	

紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない方が殆どで、雑費としてお預かりし、コロナでご家族の面会が無いので、雑費帳のコピーを請求書と一緒にご家族に送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご家族からののは、繋ぐし、ご家族にかけたい方は、ごかぞくの都合の良い時間を聞いて、かけるようにしている。手紙の返事は、ご本人に書いてもらって、宛名は代筆している。年賀状はかいてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、行事の写真を貼ったり、ご利用者と一緒に作った作品などを廊下や居室に飾っている。	台所での様子を感じる事ができるリビングは家庭的であり、食事作り時の匂いや様子も楽しむ事ができる。入居者が歩く廊下は広く、トイレも車椅子で安全に利用できるようゆったりとした作りである。廊下には日々の入居者の作品を利用し大作に仕上げ、飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを3カ所に置いて、好みの場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お気に入りの家具などを置いている。以前、畳を敷いてご家族が来られたときくつろがれるようにしていたが、今は使う方はいない。	洗面台、押入れ、タンスが備え付けられている居室には、入居者の親しみのある使いやすい生活用品が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全、安心を目標に個々に合わせた椅子を置き、手摺りの設置ベッドから降りたとき滑らないように滑り止めマットを置いている方もいる。ベッドから降りる時不安な方にP型のレバーを設置し夜間のポータブルトイレ使用時の安全を確保している。		

2 目 標 達 成 計 画

紫おん福祉の家

令和2年 11月 18 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外へ出る機会が少ない。	血液の循環、筋力向上	ホームの庭、廊下を歩く	1カ月
2	49	外の行事参加が少ない	外の景色を楽しむ	ドライブ、降りて散策	1ヶ月
3	41	嚥下の悪い方がいる	スムーズに食事が摂れる	研修でDVD冊子から学ぶ	1ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。